内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2005年3月）

◎内海事務総局長から

CNNは1週間以上も、毎日ぶっ続けでバチカンのニュースを報道した。ちょうど9月11日事件のときと同じように。そして、アメリカをはじめ、キリスト教国の元首たちが、皆バチカンにはせ参じた。国連事務総長も、年に2度しかない国連機関長の調整会議をその前日にキャンセルして、ローマへ飛んだ。私には、理解し難い光景であるが、そんなことはだれも疑問を挟まない。

今まで、国際社会は、勝者アングロサクソンの行動原理で支配されていると理解していたが、その根源は、キリスト教だと見たほうが分かりやすいことを思い知らされた。

イラクやパレスチナ問題だけでなく、日米関係も唯一絶対神を信じる者のなせるわざだと見えるし、毎日悩まされているITU内の諸問題も唯一絶対神を信仰する者と、多神教の文化で育った者との価値観の違いと見ればうなずける。

ああ、何という愚かさだろうか。我々日本人は、政治と宗教が完全に分離された政治体制は、世界中で稀有だということさえも知らないのだ。

◎3月の事務総局長の主な動向

3月8日　国際女性の日（ジュネーブ）

国際女性の日は、1857年3月8日にニューヨークの縫製工場の女性たちが劣悪な労働環境の改善を訴える行動を起こしたことと、1908年3月8日にニューヨークで女性たちが労働時間縮小と参政権を求めるデモ行進をしたのが由来とされ、1978年に国際連合が認める記念日となりました。ジュネーブでは、毎年、各国代表部の女性大使らが各国際機関の長を招待した昼食会が開催され、各国際機関での女性地位向上のための議論が行われており、私も毎年出席しています。

ITU電気通信開発局では、ジェンダー担当の職員を配置して、ジェンダーの観点からデジタル・ディバイド解消のプログラム実施にも取り組んでいます。

3月14日　デジタル連帯基金の設立記念式典（ジュネーブ）

先月のジュネーブ便りにもありますが、今年2月のWSIS準備会合で、各国から歓迎されたデジタル連帯基金の設立記念式典が、セネガル、ナイジェリア、アルジェリア、赤道ギニアの大統領と、スイス、フランスなど各国の外務大臣ら多数が参加して盛大に行われました。私は祝辞の中で、連帯基金を実現させる強い意志を持ち行動を続けた特にアフリカ諸国と、国際協調を基本にこの基金設置を歓迎した先進諸国に賛辞を送り、特に、この基金設置の発案者であり実現までに強力な政治的リーダーシップを発揮したワッド・セネガル大統領とオバサンジョ・ナイジェリア大統領を褒めたたえました。

当基金には、既に、フランス、アルジェリア、モロッコ、セネガル、ナイジェリアなどの国のほか、イタリアのトリノ州、フランスのローヌアルプス州、パリ市、リヨン市など地方自治体も出資者として賛同しており、確実に動き出しました。

ITU予算案

7月下旬のITU理事会に提出する2006－07年ITU予算案の内部調整が本格化しています。近年、WSISに関連する活動、インターネットガバナンスやNGNなど新たなテーマに対する標準化活動とともに途上国支援活動、また、多様な電波利用に対する周波数分配のための活動などITUの活動範囲が拡大していますが、職員削減を含め可能な限りのコスト削減を続け、予算は名目ゼロ成長を続けてきました。

しかしながら、今年からITU会議の中での6か国語の同等使用が始まり、全権委員会議、世界電気通信開発会議（WTDC）、世界無線通信会議（WRC）の大会議を2006－07年に開催する状況のなかで、これまでどおりの分担金を基本とした収入で賄うことは現実的に難しく、何らかの対策が必要な状態です。

職員削減などの更なるコスト削減が現実的でないところから、収入拡大も選択肢に含めた準備を進めていくこととしています。

WSIS

デジタル・ディバイド解消の財政問題の解決に道筋をつけた第2回WSIS準備会合が終了し、ジュネーブのほとんどの外交官は毎年この時期に開催される国連人権委員会議で忙殺されていて、現在、ジュネーブにおけるWSISに関する各国間交渉は小休止状態となっています。しかし、事務局では、11月のチュニジアでのWSISの警備、プロトコール、会議場や展示会の会場整備、プログラムなどロジスティカルな面で開催国との調整を続けています。また、サブスタンスについても、9月のWSIS準備会合でインターネットガバナンスなど重要課題を取り扱う委員会の委員長候補者選定やレクチャーなどを進め、またWSIS終了後の行動計画実施体制の確立に向けて、関連する国連機関などとの調整も続けています。

ジュネーブのサンピエール教会（どこの町にもこの程度のものがある）
撮影：内海善雄